

# 待つ女

2007(平成19)年12月21日<宣伝用 DVD 鑑賞>

★★★★



監督・脚本＝ジャン＝バスクル・アトゥ／出演＝ヴァレリー・ドンゼッリ／ブリュノ・トデスキーニ／シリル・トロレイ／パブロ・ドウ・ラ・トーレ／ナディア・カシ（オンリー・ハーツ配給／2006年フランス映画／86分）

……服役中の夫との面会を終えた妻に声をかけて、誘ってきたのは看守。そして、看守が録音する「あの時の声」は、今夫の手に。こりゃ一体ナニ……？ 7年間の隔離を余儀なくされた男と女の、肉体と心理の葛藤を描写する鋭さと深さは、さすがフランス映画！ 凝縮された86分間をじっくり味わおう。

## 原題と邦題のどちらが……？

この映画はいかにもフランス映画らしい香りのフランス映画だが、その原題は『7 ANS』。そして英題はこれと同じ『7 YEARS』。この7年というのは、この映画の主人公メイテ（ヴァレリー・ドンゼッリ）の夫ヴァンサン（ブリュノ・トデスキーニ）が服役している刑の長さのこと。このように、欧米流のタイトルは何とも直接的……？ これに対して、邦題の『待つ女』は、主人公メイテに注目したタイトルのつけ方で、いかにも日本的で情緒的だが、この映画のテーマの強烈さと生々しさそしてその展開を見ると、『待つ女』だけではややインパクト不足……？

## 冒頭のアイロンがけのシーンを観れば……

最近の邦画はちょっとした恋愛モノでも2時間を超えるものが多いが、この映画は86分と短い。それは、テレビドラマの延長のような、長々としたセリフとバカ丁寧な状況描写が続く傾向が強い最近の邦画に対して、フランス映画は状況の切り替えが早いうえ、セリフが少なく、俳優たちの表情から観客が状況を考え、理解することを求めるため。

プレスシートにあるジャン＝パスカル・アトゥ監督の『『待つ女』は、彼女の愛する男と、彼女を求め愛を交わす男の間で、揺れ動く女性の話です。こうした瞬間瞬間を捉えるために、私はごく短くシンプルで、言葉よりも沈黙が語りうるようなシーンで描きたかったのです』とのコメントを読めば、監督の狙いがよくわかる。特にこれを読んでいなくても、映画の冒頭、メイテが1人アイロンがけをしている姿、そしてその後大きな紙袋をもって刑務所の前で面会を待つ姿を観れば、セリフが何ひとつなくとも、監督が提示したい状況設定が十分読みとれるはず……。

### 興味深い面会風景

服役中の男と刑務所を訪れる女との愛という話はたくさんある。また、刑務所の面会の名シーンも、たとえば、韓国映画の『ユア・マイ・サンシャイン』(05年)、『シネマルーム11』257頁参照)や『私たちの幸せな時間』(06年)、『シネマルーム13』99頁参照)などたくさんある。

そんな目で『待つ女』の面会シーンを観ると、フランス流のそれがよくわかる。つまりこの映画を観る限り、フランスでは看守が時々窓ガラス越しに覗いてチェックするものの、服役囚と面会人は何の障害物もなく個室で話すことができるから、手を握り合うことも自由。するとキスをしたり、もっと大胆な行為をとったりすることも……？ この映画では、週2回面会にやって来るメイテとヴァンサンとの面会シーンがペースメーカーになっているから、まずは、そんなフランス流の面会風景を理解しておきたいもの。

### メイテの生活は……？

メイテの夫ヴァンサンがどんな仕事をしていたのか、またどれくらいの収入があったのか、映画はそういう雑事(?)には全然触れていない。しかし、メイテがどこから、どんな収入を得て生活しているのかは当然興味の対象だし、それが明らかにならなければ、7年間も夫と別れて暮らすメイテの不安な心理の分析や理解も不十分になってしまうはず。しかし、そこでもジャン＝パスカル・アトゥ監督は断片的なシーンと会話を示すだけ。

今、メイテはジュリアン少年(パプロ・ドゥ・ラ・トーレ)の勉強を見てやっているが、彼はヴァンサンとの間の子供ではなく、向かいに住むシングルマザーであるジ

ジャミラ（ナディア・カシ）の息子。仕事で忙しいジャミラの息子の家庭教師をしたり、世話をしてやることによってメイテは生計を立てているらしい。しかし、それでは十分な収入がないと見えて、ある日いい仕事を見つけてきたが、このこまっしゃくれたガキ（？）がえらくメイテのことを気に入っており、またジャミラも条件のことは相談にのるからと言われると、つい……？

愛する夫が傍にいない7年間もの空虚な時間を、精神的にも肉体的にも（性的欲望の処理でも）、うまくバランスを保っていくためには、まず経済的安定が必要だが、これを観ていると、その点から不安あり……。

### そろそろ1年……

週2回の面会では、夫の着替えを持っていき汚れた衣服を持ち帰る作業と、わずかの時間の語らいができるだけ。たまに看守の目を盗んでキスを交わしたりするものの、ヴァンサンの手が胸に伸びてくることがあってもそれ以上はムリ。したがって、メイテの性的欲情が満たされないのは当然。

そんな状態が続く中、ヴァンサンの服役は明日でちょうど1年になるらしい。そんな時、面会を終えたメイテに対して、刑務所の出口で声をかけてきた男がジャン（シリル・トロレイ）。「車で送ってやろうか」と親切に言い寄ってくるのだが、それはなぜ……？ 1度は断ったものの、再三言われるとメイテもそれを受け入れ、ジャンの車で送ってもらうことに。すると、やはり男と女。コトの成り行きとして2人は……？ ジャン＝パスカル・アトゥ監督のここらあたりの描写のうまさは抜群。メイテを演ずるヴァレリー・ドンゼッリはイタリア系の美人女優と表現されているが、日本人女性とは全然違うバタ臭い女。しかし、そこらあたり（？）の表現力と魅力は十分。もちろん、スケベ心を満足させるようなエッチシーンが長々と出るわけではないから、そういう期待はナンセンス。しかし、「待つ女」の性的欲望のあり方は、実にリアルに理解できるはず……。

### 車の中にはテープレコーダーが……

ある日、いつものように林の中に車を止め、カーセックスに励んだ2人だったが、そこでメイテが発見したのは小型のテープレコーダー。何となくメイテがそれを再生してみると、何とそこには「あの最中」の音が録音されていた。そういうことをして

楽しむ男も時々いるらしいから、メイトはその時ジャンもそうなのかなと思った、かどくは知らないが、実は「あの最中」を録音したこのテープレコーダーは、とんでもない意味をもっているものだった……。

### ジャンは一体何者……？

夫が服役してから1年。ジャミラとの会話でも性的欲望のことを聞かれ、恋人や愛人を持ったらとささやかれたり、ジュリアンからは刑務所の出口で待っているジャンの姿を目撃されたり……。そんな中、現にメイトは夫に内緒で時々ジャンと秘密の性的交渉をもつことになってしまったのだから、メイトの心の葛藤は大変なもの。

もちろん、これを機会にメイトがヴァンサンのことをスッパリと忘れ、ジャンに夢中になることができれば簡単なのだが、今でもメイトが愛しているのはヴァンサンだけだったから、メイトの苦悩が大きかったのは当然。

そんなメイトが思わず息をのんだのは、夫との面会を見張る看守の姿を見た時。何とそれは、自分を車に誘い、今やカーセックスが日常化しているジャンだったのだ。こんな偶然ってあるの……？ それとも、これは誰かが意図的に仕組んだもの……？ たちまちメイトの頭が混乱状態に陥ったのは当然。そして、観客もメイトと一緒にアッと驚かされたはず……。

### さらにアッと驚かされるのは……？

メイトはある日、ジャンから自分の仕事は看守だと聞かされてビックリさせられたし、ジャンがヴァンサンのことも知っていると言われていたのだが、まさかそのジャンがヴァンサンと看守として2人の面会を見張っているとは……？ そこで気になるのが、あのテープレコーダーだが、面会を終えてメイトが帰った後、ヴァンサンとジャンが交わしている会話はあのテープレコーダーの声をめぐるとも生々しいもの。

ネタバレになるのを覚悟で書くと、それは「お前は早すぎるんだ。俺がするように彼女を抱くんだ」というもの……。これには、観客はさらにアッと驚かされるはず。つまり、「あの最中」の様子をテープレコーダーでの録音は、ヴァンサンとジャンの指示によるもの……？ そうだとしたら、それは一体なぜ……？

ここらあたりの心理描写の鋭さと細やかさが、今ドキの邦画にはないフランス映画特有のもの……。



### ジャンが本気でメイテを愛してしまったら……？

ヴァンサンとジャンはお友達でグル（合意?）、そしてメイテもそれを納得のうえ。そんな状況下で、ヴァンサンとメイテの性的欲望処理のためにジャンの肉体だけを利用し、ジャンもそんな恩恵で大満足。そんな3人の関係ができてしまえば、それも1つの理想型……？

そう思えないこともないが、それでハッピーエンドになったのでは映画にならないから、この映画ではどこかに破綻が出てくるはず。その破綻の1つのパターンが、もしジャンが本気でメイテを愛してしまったら、ということ。もちろん、メイテが本気でジャンを愛することになった場合も、ヴァンサンとメイテとの関係は破綻するわけだが、これは世間によくあるパターン（?）だから面白くない……？ やはり、こんなフランス映画が描く破綻のパターンとしては、ジャンがメイテに本気で愛するようになるのでは……？

これ以上のネタばらしはやめ、後はあなたの想像力に委ね、あなた自身がスクリーンで観てもらいたいもの。86分という短い時間に凝縮された、「これぞフランス映画！」というつくり満足できることまちがいないはずだ。

2007(平成19)年12月22日記